

南 滿 行 (つゞき)

倉 橋 惣 三

四、奉天の講習

奉天に於ける保育講習は高等女學校の講堂に開かれた。沿線各地から集まられた講習員諸君の熱心は、講師として感謝せざるを得ないものがあつた。たゞ期日四日間、説いて精しきに及び得なかつたのは已むを得ないとして、滿洲といふ地方状況を充分詳かにしない爲に、語つて適切なるものが少なかつたろうかと怖れる。實際、幼稚園はその土地に生れるものである。家庭生活が地方條件に支配せらるゝ如くに、幼稚園は、地方の自然的社會的條件に支配せらるべきものである。學理上からする一般保育原理が、保姆諸君の周到な工夫によつて、土地にふさわしく活かされんことを切

望して已まない。講習會の景況の一端を示すために、講習員諸君の地方分布を、その名簿によつて擧げておこう。

幼稚園名	氏 名
大連北公園幼稚園	石 田 豊
同	鈴木ツル
同	川畑千代子
同	鳥 海 操
大連日出町幼稚園	倉 島 静 江
同	泊 田 マツ
大連伏見臺幼稚園	國 枝 正 惠
同	堀 口 フ ミ
大連沙河口幼稚園	百 地 多 計
同	藤 井 キ エ
大連南沙河口幼稚園	小 山 文 子
同	日 高 ア ヤ

撫順永安臺幼稚園

二宮 エイ

同

今澤 トシ子

同

小川 茂

同

本郷 信子

大連南山麓幼稚園

桐原 末子

同

堺 フサ

同

松浦 仙子

五、滿洲の家庭

奉天の講習を機として、沿線主要地で婦人のために家庭教育の講演をすることは、私の依頼せられた第二の任務であつた。私は、内地に於ても、我子を教育しつゝある母親諸君に向つて、我子の教育に就て語ることを最も愉快とするものである。世に、我子の教育に就て専念する母親の心程、眞剣な教育心はない。その尊い教育に對して少しでも役に立つといふことは、實に語るに語り甲斐あること、言はなければならぬ。況んや、海を越えて、國力發展の第一線に家庭を營み、そこ

に我子を護り、我子を育てゝある母親方に向つて語り得ることは、此上もない快事である。安東を第一回として、鐵嶺、長春、撫順、大石橋、營口、大連、奉天の各地に於て、多くの熱心な母親諸君に會つたが、滿洲には滿洲としての特種な問題が、その家庭生活と教育との上にある。私は、それ等の點に就て、説くよりも聽くことの多く、解決するよりも考へさせらるゝことが少くなかつた。國力愈々發展して、母國以外の地に小國民の教養をしなければならぬことの愈々多くなるにつれて、深く考慮して置かなければならぬのは家庭生活とその教育の問題である。

私は歸途、大連からの船中で、滿洲に生れ滿洲に育ちて、初めて母國訪問に海を渡る高等小學生の一隊と同船した。そして、引率者の乞を容れて、その一隊の爲に短いスピーチを試みた時、再び、いろ／＼のことを考へさせられたのであつた。更

に歸來、彼の地の人々から書信を送られて、我が愛兒の教育に關して、極めて切實な質問や相談をうくる時、その度びに又、いろ／＼のことを考えさせられるのである。學校教育の完成は必ずしも難くないとして、家庭の教育問題こそ、どこでも最懇に考ふべきことであらう。

六、冬近し

秋や如何になど、秋滿洲に晴るゝ詩趣を思つてゐる中に、もう直ぐ冬は滿洲を襲ふのであらう。私達は、そこにも多くの美しい滿洲と、内地に見られない光景とを、可なりの好奇心を以て思ふことが出来る。あの廣い鴨綠江や遼河の水が氷つて、その上を車行するのも、如何に雄壯なことであらう。朔風雪を吹いて、滿目蕭條の曠野を、急行車のかねを響かせて北へ貫くのも、如何に壯絶なことであらう。しかし、それは趣味の好奇心である。滿洲の長い冬は子どもを家の内に閉ぢ込めるのである。戸外の楽しい活潑な遊戯を禁斷して

仕舞ふのである。幼稚園の先生の特殊な苦心を強要して來るのである。或る人が言つた。夏に滿洲に來て、草の青い滿洲を見て、それで、滿洲生活の何が分ると。或る保姆さんが私に言つた。先生の自發主義保育法は、夏の滿洲に適要すること必ずしも難くない。たゞ、比較的狭い室に、多數の幼兒を容れて、窓外酷寒の冬に閉される、あの長い冬の日をどうしませうと。私は勿論、充分に答へる處を知らなかつた。人を其の苦心の最中に於て見舞はないものは、眞によく人に役立つことは出来ないとは誠である。實に、それに相違ないものであるが、それでも尙、私としては、近く來るべき冬の滿洲と、その幼稚園の一つ／＼を思ふて、夏に置いて來た小さな種子が園の隅つこに冷く萎んで仕舞ふ様な目にははされないことを、ひたすら念じてゐる譯である。何は兎もあれ、冬近し、滿洲の幼兒達よ。遠くその健在を祈つてやまないのである。

(九月二十七日)